

8) 県内の特徴的な動き(平成27年度)

(1) 乳用後継牛の県内確保の取組

県では、酪農経営における乳用後継牛を確保するため、性判別精液の活用や哺育育成施設の整備に支援しました。

また、将来酪農ヘルパーや牛群検定に携わる人材や酪農後継者の育成に向け、農業高校生などを対象に本県酪農の理解醸成を図るための先進施設研修等に取り組んでいます。



農業高校生の酪農研修

(2) 獣医師確保対策の実施

県では、平成24年1月に「青森県獣医師職員確保プラン」を策定し、将来にわたり県獣医師職員を安定的に確保するため、インターンシップや中学・高校への出前講座の実施、獣医系大学生への修学資金の給付などに取り組んでいます。



高校への出前講座

(3) 飼料用米を有効活用するための新たな取組

十和田市や三戸町などの肉用牛農家では、コスト低減のため、乾燥が不要で屋外保管が可能な稲ソフトグレインサイレージ(稲SGS)の生産に取り組んでいます。稲SGSは、飼料用米を粉砕・発酵させるため消化性や嗜好性に優れるなど、飼料用米を有効活用するための新たな取組として注目されています。



稲SGS

(4) キャトルセンター整備による肉用牛増頭の取組

三八地域では、畜産担い手育成総合整備事業を活用して草地造成や周年預託施設（キャトルセンター）、堆肥舎等を新たに整備し、五戸町宮ブドロク放牧場を核とした肉用牛の地域内一貫生産に取り組んでいます。



ブドロク放牧場



周年預託施設

(5) 全国和牛能力共進会宮城大会に向けた出品強化の取組

県では、平成29年9月に宮城県で開催される全国和牛能力共進会での上位入賞に向けて、県基幹種雄牛「優福栄」産子を利用した、血液分析による肥育素牛の栄養状態の確認や、アイミートによる肉質調査により、早期肥育の実証事業に取り組みました。



血液分析のための採血



アイミートによる肉質診断

(6) 県産畜産物の消費拡大対策

県では、県産畜産物の消費拡大に向け、畜産関係団体の協力のもと、公益社団法人青森県観光連盟が主催する「あおりたまごかけごはんまつり」に合わせて開催した「あおり大畜産まつり」で消費者に対するPRに取り組みました。



あおり大畜産まつり